

審査の結果の要旨

アチャラ ウーペンダラ ジャヤティラカ

本研究は、2008年8月から2009年3月にかけてスリランカ国キャンディ郡において実施された。目的は以下の2つである。1) シンハラ語版マンチェスター運転行動質問表（以下シンハラ語版DBQ）の開発とスリランカ国の三輪自動車運転手における一次的妥当性試験。2) スリランカ国の自動三輪運転手における交通事故に関連する因子の特定。この研究により得られた結果は、以下のとおりである。

1. マンチェスター運転行動質問票に基づき、シンハラ語版DBQを開発した。マンチェスター運転行動質問票は、1990年に開発され、交通事故に関連する運転手の危険運転行動を測定するために用いられている。マンチェスター運転行動質問票は、全50項目からなり、50の危険運転行動を測定する。30項目の「過失」および20項目の「違反」の2つのサブスケールからなる。このマンチェスター運動行動質問票を標準的な方法でシンハラ語に翻訳し、シンハラ語版DBQとした。
2. シンハラ語版DBQ全50項目、30項目の過失サブスケール、および20項目の違反サブスケールのそれぞれについて、心理測定を行った。シンハラ語版DBQ全50項目および2つのサブスケールは、スリランカにおける三輪自動車運転手の交通事故に関連する因子の特定において、信頼性および妥当性が十分ではないと考えられた。
3. シンハラ語版DBQの因子分析では、スリランカにおける三輪自動車運転手の路上交通事故に関連する危険因子の特定において、信頼性および妥当性のある2つのサブスケールを見出した。一つは、10項目からなる「意図的な違反」、もう一つは4項目からなる「急いでいる時の違反」であった。

4. さらに、私立の教習所にて免許を習得した三輪自動車の運転手は、公立の教習所または免許登録所にて免許を習得した運転手に比較して交通事故を起こしやすかった。
5. また、客席に3人以上の乗客を乗せている場合（客席が込み合った状態）は、交通事故を起こし易かった。
6. そして、一日80km以上走行している運転手、35歳未満の運転手は交通事故を起こし易かった。

本研究で得られた結果は、これまでの三輪自動車運転手における研究では報告されることがないものである。さらに、本研究は運転行動を測定するための質問票の妥当性を三輪自動車の運転手について検討した初めての研究である。以上より、本研究は、スリランカ国における三輪自動車の交通事故予防に貢献しており、学位の授与に値するものと考えられる。